

無垢であること

東御市梅野記念絵画館館長 佐藤 修

「痛々しいほど鮮やかな絵」……作家・北方謙三氏が村上肥出夫の作品を評しての言葉です。

荒川の鉄橋の下に寝泊りする放浪生活をしていた画家は、銀座で絵を売っているところを見出され下積み生活から逃れ出ます。堰を切ったように描き出した激しいタッチの厚塗りの油彩画によって、村上肥出夫は一躍時代の寵児となっていくます。

しかし1979年、突然中央画壇に背を向け、岐阜県下呂温泉近くの山中にアトリエを構えます。このまま都会にいては駄目になる、絵を描くことに純粋でありたいと決意したのでしょうか。一方で、矛盾した話ですが、岐阜の山中に居ながらも、もう一度画壇の脚光を浴びたいという望みも捨てたわけではなかったようです。

1997年、画家が暮していた岐阜の住居兼アトリエが全焼しました。絵具もキャンバスも、2万冊にも及んだという蔵書も灰燼に帰したのです。

画家は燃え盛る炎と黒煙のなかに何を見たのでしょうか。失ったものはモノだけではなかったようです。アトリエを焼き尽くした炎は画家のなかの意欲と気力をも萎えしぼませてしまったのです。

1976年、岐阜の田舎に引込む前に、村上肥出夫はこんな文章を書き残しています。

僕は、僕の橋の下の生活を生涯大切にしたいと思います。それは僕の絵画生活における精神の中継基地として、東京での放浪時代、さらに少年時代の夢へとつながり、なによりも自分をかえりみる場所、そして現在と将来を照らし合わせる役目をしてくれる場所だからです。あの橋の下で、僕は芸術家として生き、自己の使命をつらぬこうと固く心に誓ったのです。それは、単に画家として有名になるというようなことではなく、ただひとりの人に対してでも生きる勇気を与え得るような人間になるということでした。《中略》 絵は人間への形見であり、むしろ自分の生き方にこそ意義があるのだと思っていました。(「パリの舗道で」村上肥出夫 1976年 彌生書房)

画家は「橋の下」から逃れ出たのではありませんでした。むしろ逆です。画壇の売れっ子になり、時代の寵児としてもはやされているうち、画家は、生涯大切にしたいと願った“あの頃の生活”に戻ろうとしたのではないのでしょうか。荒川の橋の下での代わりが岐阜山中の住まいだったのだと思います。火災は画家にとって余りに残酷な仕打ちでした。焼土の上に、もう一度「絵画生活における精神の中継基地」を築こうにも、最早その気力が湧いてくることはありませんでした。今、画家・村上肥出夫の『痛々しいほど鮮やかな絵』の前に立ち彼の境涯に思いをいたすとき、画家が自己の使命を果たさんと蘇生する奇跡を夢想するのです。

■ 2016年イベントスケジュール

4/10(日) 13:30～ 村上肥出夫を語る(画家・安住孝史氏、兜屋画廊・小澤禮子氏、池田章氏による鼎談)

5/22(日) NHK絵手紙講師・大月ユキ氏による絵手紙教室
料金200円 定員50名(要予約)

6/5(日) 金澤翔子展オープニング(揮毫、講演)
※変更となる場合も御座います

■ お知らせ

4/10(日) 村上肥出夫展、中村忠二展バスツアー
池袋→当館 (詳細はお問い合わせ下さい)

4/17(日) 11時田中駅発、15時当館発の送迎

4月下旬 梅野記念絵画館友の会総会
※変更となる場合も御座います

■ 施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1

TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp

開館時間 午前9時～午後5時(4時30分迄にご入館ください)

入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)
身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。

休館日 毎週月曜日(祝日の場合その翌日)

■ アクセス

🚗 **お車** 練馬ICから2.5時間

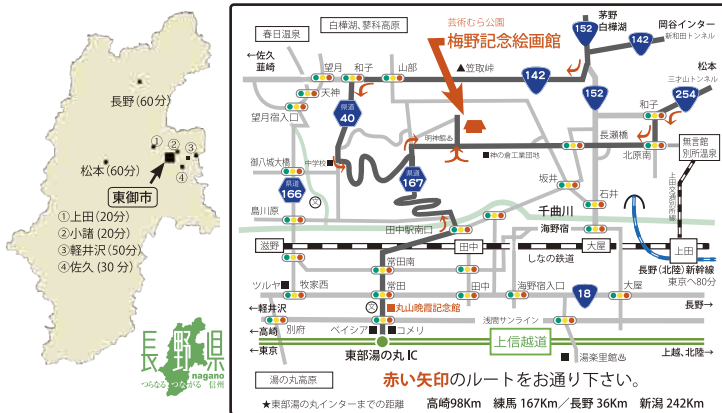
🚆 **鉄道** 東京から最速2時間
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分

◆関東、北陸方面から
上信越道東部湯の丸インターから15分

◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。

◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間

◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@fomtomi785.jp



九段

— 魂の画家 —

村上 肥出夫展

4月10日(日)～5月29日(日)

同時開催: 中村忠二 生きものの漫画展

梅野
記念
絵画館
www.umenokinen.com

4/10(日) 13:30～ 村上肥出夫を語る
(兜屋画廊・小澤禮子氏、画家・安住孝史氏、
池田章氏による鼎談)

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162

村上肥出夫 年譜

- 1933年 岐阜県土岐郡に生まれる。
- 1953年 上京。転々と職を変え、路上生活を送る。
- 1961年 銀座並木通りにて彫刻家 本郷新の目に止まり、兜屋画廊で紹介される。
- 1963年 銀座松坂屋において新作 150 点の個展開催。その後、名古屋、大阪で個展開催。安井賞展に出品。
- 1964年 大阪芸術祭にて個展開催。渡米。銀座で「パリ、東京、ニューヨーク展」開催。
- 1966年 以後、毎年日本洋画商協同組合展出品。
- 1974年 大分で個展開催。
- 1980年 博多で新作展開催。
- 1984年 兜屋画廊において「パリの舗道にて・パステル展」開催。
- 1986年 岐阜県美術館で個展開催。
- 1994年 兜屋画廊で個展開催。
- 1997年 アトリエが全焼。アトリエと 2 万冊にも及ぶ蔵書が灰となった。
- 1999年 兜屋画廊にて村上肥出夫回顧展 (I) 開催。
- 2000年 兜屋画廊にて村上肥出夫回顧展 (II) 開催。
- 2004年 大川美術館で「村上肥出夫展」開催。



マンハッタンブリッジ



高速道路下



神宮



風景



本郷